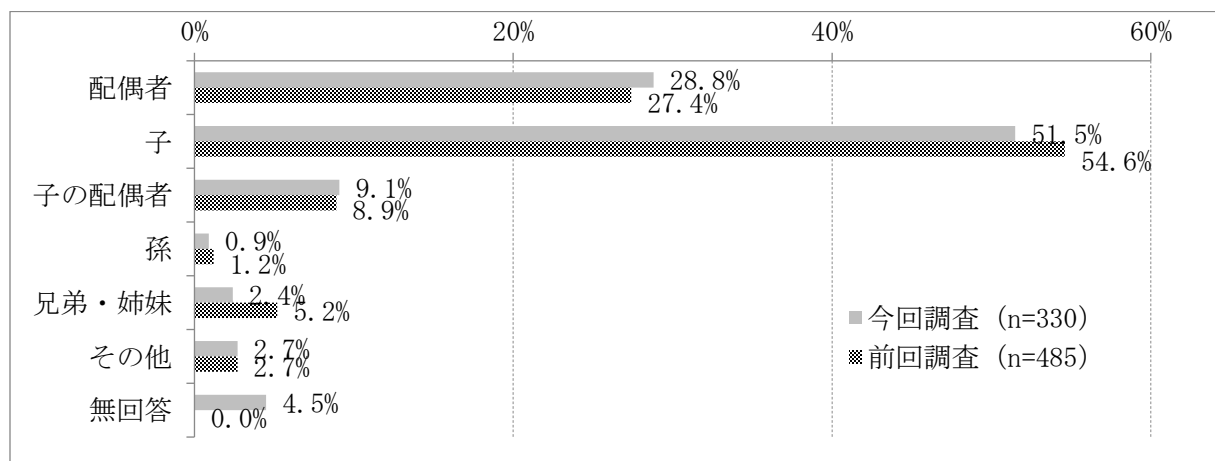


在宅介護実態調査【概要・分析】

1 主な介護者

3年前の調査と比較して、わずかですが「子」から「配偶者」へのシフトがみられ、老老介護が増加していることがうかがえます。

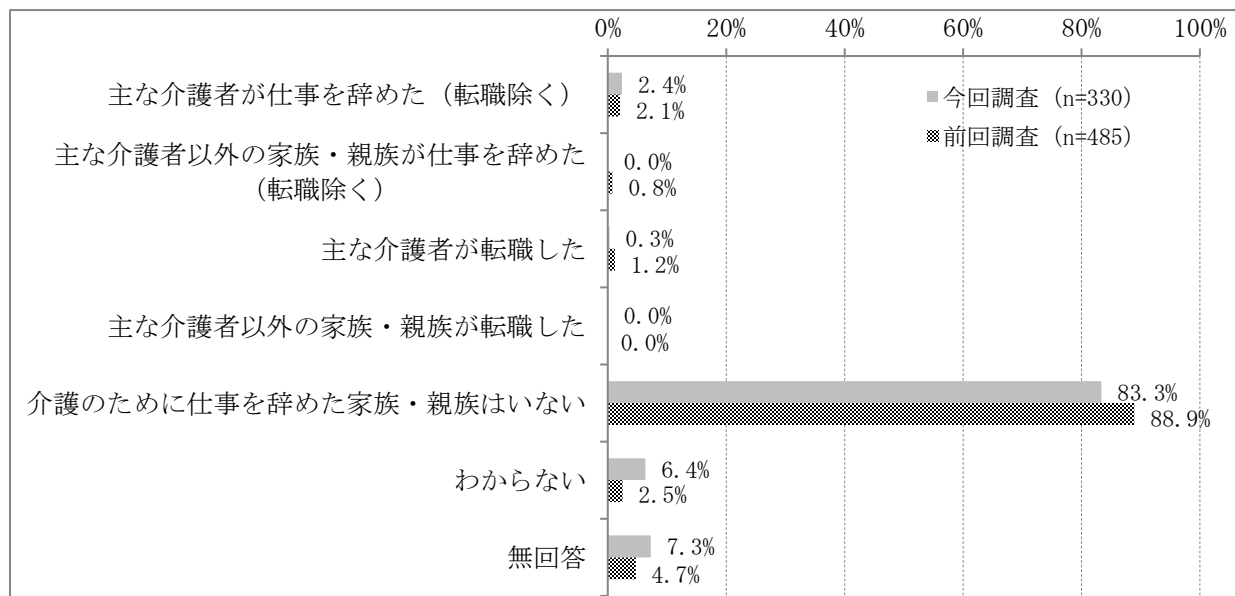
・主な介護者の本人との関係



2 介護離職

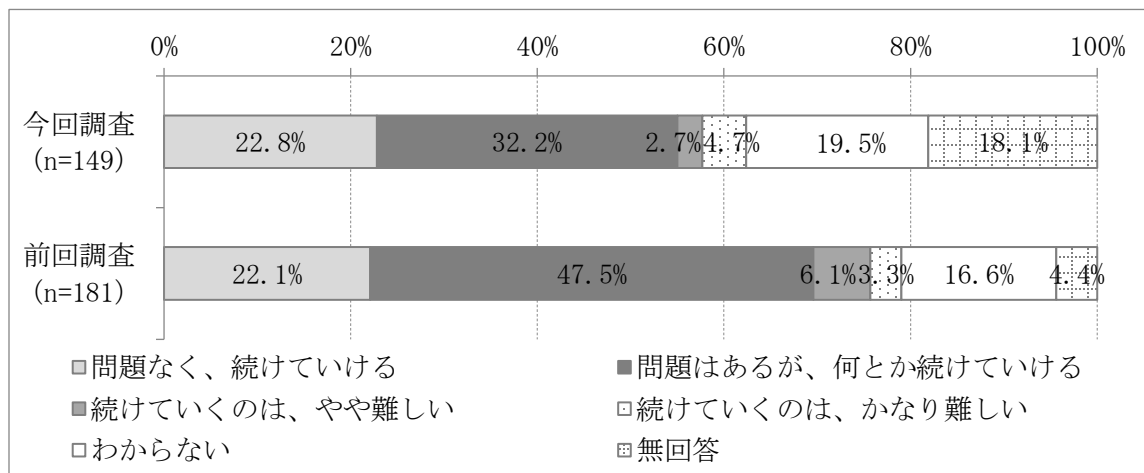
「主な介護者が仕事を辞めた」割合が介護離職に該当しますが、3年前の国の試行調査では、人口30万人以上の都市では6.6%であり、旭川市は介護離職の割合が低いことがわかります。

・介護のための離職の有無



また、明確に就労継続が難しいと回答した介護者の割合も、前回調査時よりも減少しています。

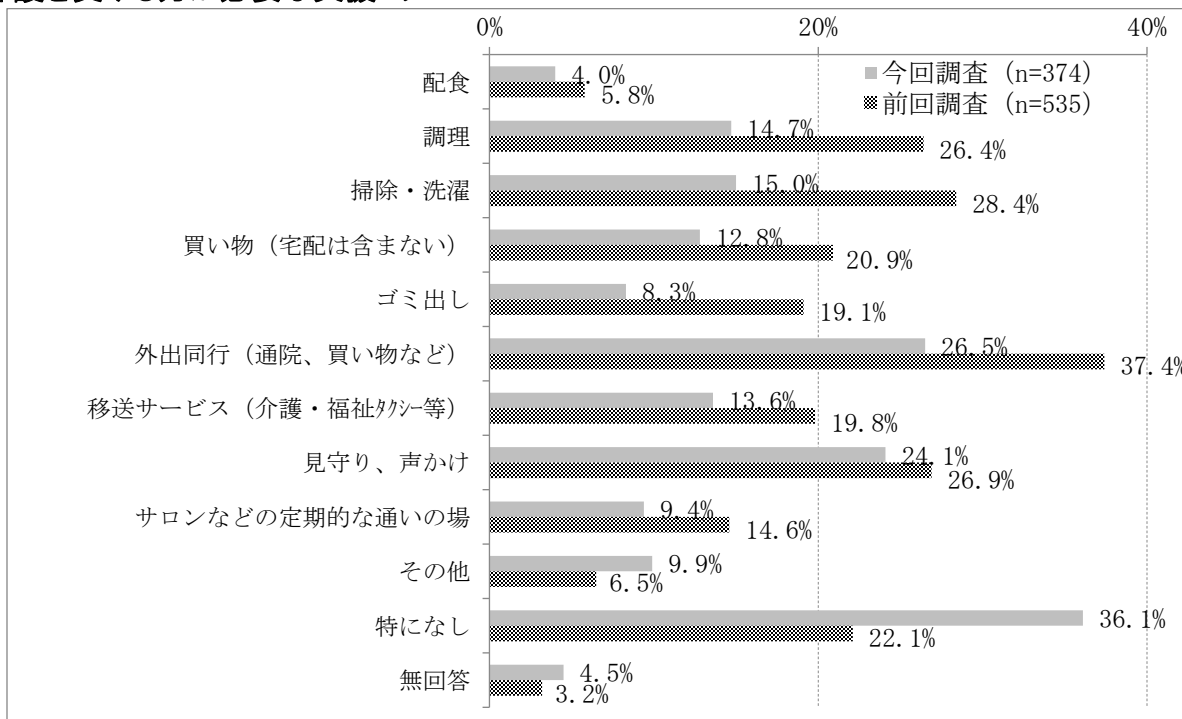
・主な介護者の就労継続の可否に係る意識



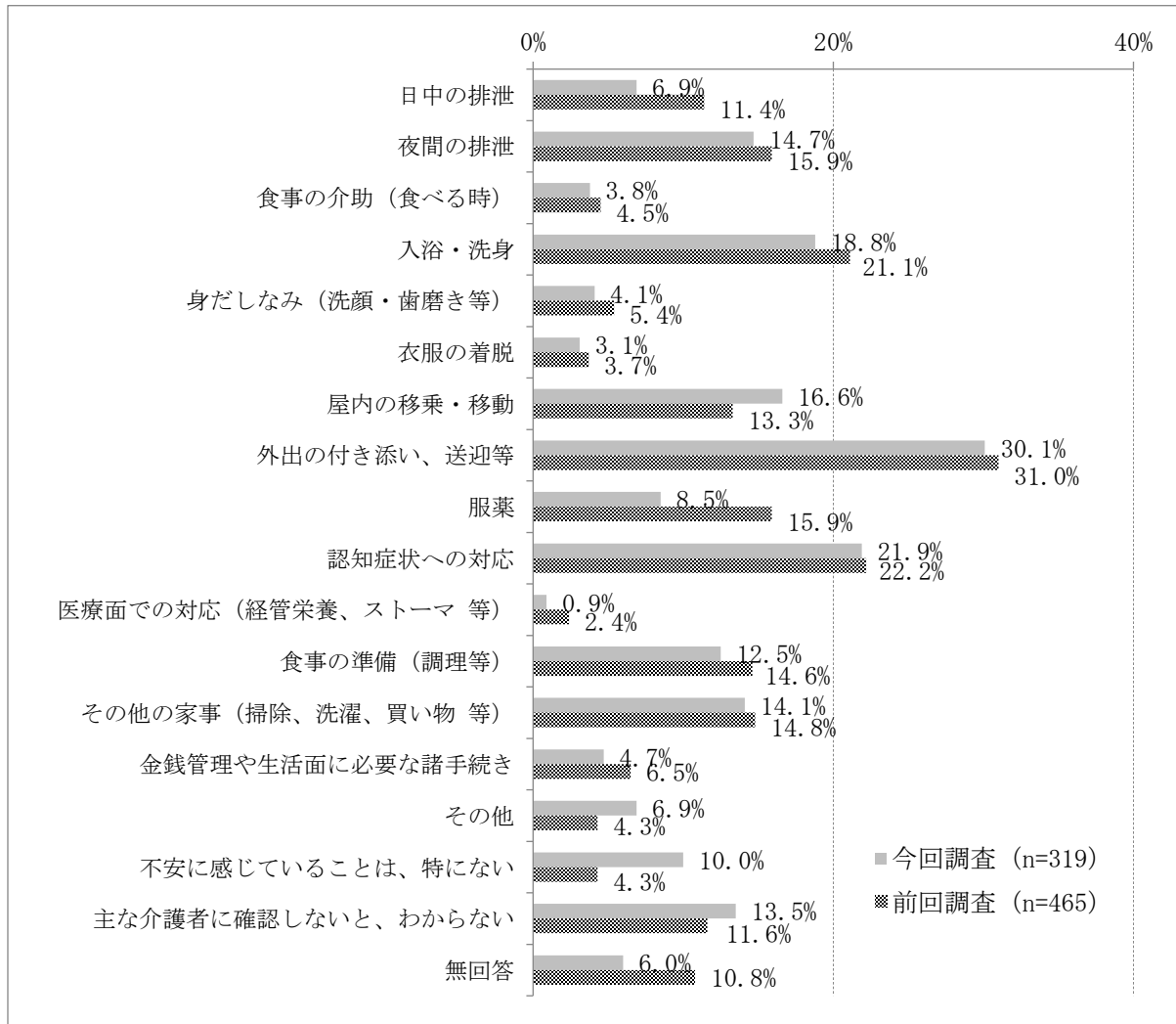
3 在宅生活の継続に必要なもの

介護を受ける方が必要と感じる支援・サービスは、全体的に前回の調査時よりも減少しています。介護者においても「屋内の移乗・移動」を除いて、不安を回答した割合は減少しています。

・介護を受ける方が必要な支援・サービス



・介護者が不安に感じる介護

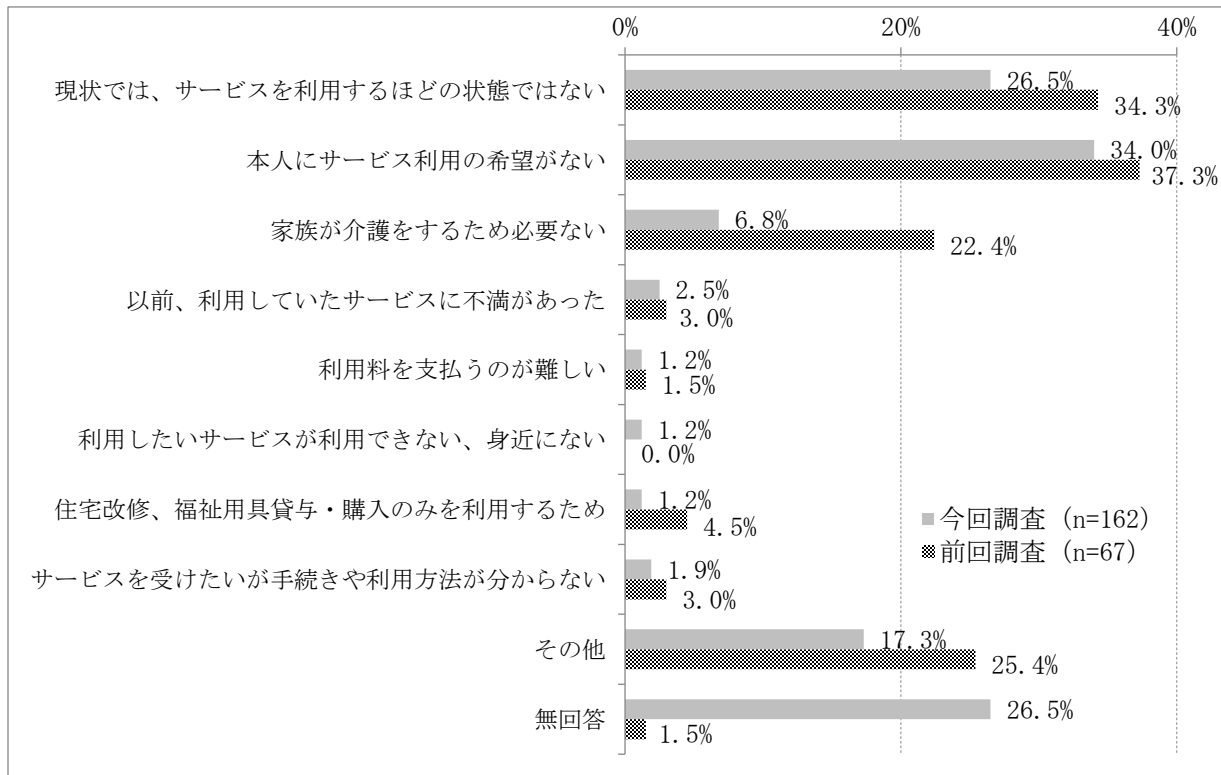


4 介護保険サービスの利用

今回聞き取りを行った要介護認定者のうち、介護保険サービスを利用していない方が34.0%いましたが、未利用の理由をみると、そもそも介護が必要ない方やサービス利用希望のない方が多数となっています。

今回の調査対象374人のうち91人(24.3%)が、こうした介護保険サービスが現時点では必要のない方となっています。

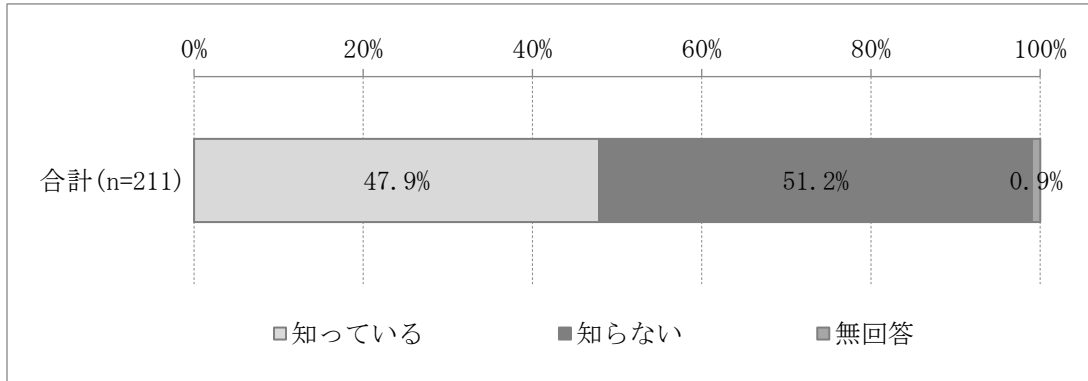
・介護保険サービス未利用の理由



5 あさひかわ安心つながり手帳

介護保険サービス利用者を対象に配布されるあさひかわ安心つながり手帳ですが、新規の申請者もいるため、認知度は約半数となっています。また、知っている方の中で常時携帯している方は、さらにその半数となっています。

・あさひかわ安心つながり手帳の認知度(介護保険サービス利用者からの回答)



・携帯状況

